

今月の

5冊



《シリーズ ケアをひらく》 食べることで出すこと

頭木弘樹＝著
本体2000円＋税
医学書院 ☎03-3817-5600

個性的なカフカ研究者として知られる著者は、潰瘍性大腸炎という難病に襲われた。食事と排泄という「当たり前」が当たり前でなくなったとき、世界はどう変わったのか？ IVHでも癒やせない顎や舌の飢餓感とは？ 茫然と便の海に立っているときに看護師から雑巾を手渡されたときの気分は？ 切実さの狭間に漂う不思議なユーモアが、何が「ケア」なのかを教えてくれる。

《シリーズ ケアをひらく》 やってくる

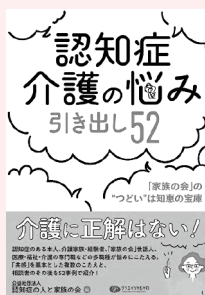
郡司ベギオ幸夫＝著
本体2000円＋税
医学書院 ☎03-3817-5600



私たちの「現実」は既にあるものの組み合わせではなく、外部からやってくるものによってギリギリ実現されている。だから日々の生活は、何かを為すためのスタート地点ではない。それこそが奇跡的な達成であり、体を張って実現すべきものだ。「日常を支える人々」に送る、ケアという「小さき行為」の本質に迫った1冊。

認知症介護の悩み 引き出し52 「家族の会」の“つどい”は知恵の宝庫

認知症の人と家族の会＝編
定価：本体2000円＋税
クリエイツかもがわ ☎075-661-5741



認知症当事者と家族のピアサポート組織である「家族の会」。その交流の場である“つどい”で語られた、認知症にまつわる悩みごとの中から52の事例を紹介。1つひとつの質問に、介護家族・経験者、医療・福祉の専門職などが、それぞれの立場から回答を寄せる。相談者の後日談もあり、介護初心者にとって心強い手引書。

そのときうんちはどこにいる？

榊原千秋＝監修 きたがわめぐみ＝作
本体1600円＋税
日本看護協会出版会 ☎0436-23-3271



看護書の出版社が作った親子で楽しめる「便育」の絵本。食べものが体内で消化、吸収され、便として出されるまでの仕組みを、幼い子にもわかるように解説。かといって過度の単純化はせず、しっかりと基礎が押さえられているので専門職も納得の内容になっている。食べることで出すことへの興味を湧く1冊だ。

ナースのチカラ 第2巻

私たちにできること訪問看護物語

広田奈都美＝著
定価：750円＋税
秋田書店 ☎03-3264-7248



本誌2月号にも登場した現役看護師のマンガ家が描く現場のリアル。義母の看取りを機に50歳で看護師になった主人公と、訪問看護ステーションの仲間たちが、日々の訪問のなかで揺れ動く心を描く。最新第2巻では、親友の看取りを通して自身のこれまでの人生を振り返り、「自分にしかできない看護」に至るまでの姿を描く。